

〈 海洋教育セミナー 〉

『里海づくり推進に向けて～振り返りと将来展望～』 Part II

【日 時】	平成27年3月23日（月） 10:00～12:00
【場 所】	オルガ地下ホール TEL086-254-7244 岡山市北区奉還町 1-7-7
【主 催】	認定 NPO 法人共存の森ネットワーク・NPO 法人里海づくり研究会議
【共 催】	生活協同組合おかやまコープ・(公財)おかやま環境ネットワーク
【参加費】	無 料

〈プログラム〉

開会の挨拶（10:00～10:05）

NPO 法人里海づくり研究会議 理事・事務局長 田中 丈裕

1. 「“聞き書き” と海洋教育の取組みー」（10:05～10:25）

認定 NPO 法人共存の森ネットワーク 理事・事務局長 吉野奈保子

2. 「漁師さんと取り組むアマモ場保全活動」（10:25～11:10）

岡山県備前市立日生中学校 教諭 藤田孝志

岡山県備前市立日生中学校 3年生アマモ場再生グループ

3. 笠岡湾におけるアマモ場保全ーその活動内容と足跡ー（11:10～11:30）

生活協同組合おかやまコープ・井笠エリア

4. 「日生の里海づくりの道程ー地域の歴史や食文化から考えるー」（11:30～11:55）

NPO 里海づくり研究会議 理事 清野聡子（九州大学大学院准教授）

閉会の挨拶（11:55～12:00）

NPO 法人里海づくり研究会議 理事長 奥田節夫（京都大学名誉教授）

【企画主旨】

日生は、漁場環境や水産資源の保全・回復について常に主導的、先駆的な役割を果たし、漁業と観光業等が連携して6次産業化を推進し、古くから人の手を積極的に加えることで発展してきたという面において、まさに“里海”と呼ぶにふさわしい沿岸地域である。

日生においては、漁業者組織である漁協が理事・組合員らの相互の信頼関係と協調性を保持しながら主体となり、中央行政の支援の下、地域行政、多分野に亘る複数の科学者、民間企業の技術者等が一体となって多くの事が進められてきた。2005年には、漁協が中心となって海洋牧場適正利用協議会として協議推進母胎が設立されたが、2009年には地元商工会や観光協会、海洋政策研究財団や大学の科学者など幅広い関係者が加わって備前市沿岸域総合管理研究会が新たに組織され、海洋牧場の適正利用を始め、持続可能な里海が達成された「未来の姿」を模索している。2012年5月には、日生町漁協、岡山県、生活協同組合おかやまコープ、NPO 法人里海づくり研究会議で4者協定を締結し、流通消費部門、一般市民との連携も強化され、漁民と市民協働によるアマモ場再生活動や里海に関する広報活動、環境教育に取り組んでいる。さらに、日生中学校では、2012年に1年生が漁師と取り組むアマモ場再生活動を始めたのを契機に、2014年度からは3学年全員を対象とした総合学習として取り入れられることになり、我が国における海洋教育にとっても先駆的役割を果たしつつある。

ここで、さらなる里海づくりに向けてステップアップを図るため、日生の歴史や文化、これまでの活動を振り返り、将来展望の構築を目指して、2014年8月20日に日生の地において地元住民を対象として「里海づくり推進セミナー」『里海づくり推進に向けて～振り返りと将来展望～Part I』を開催した。この度は、『里海づくり推進に向けて～振り返りと将来展望～Part II』として、岡山市において、アマモ場再生など沿岸環境保全活動に取り組む笠岡市市民グループとの交流を図るとともに、都市住民の視点から市民の声をいただくことにより、里海づくりの推進と海洋教育の普及に資することを目的としたものである。